

静岡県すこやか長寿祭美術展及び熟年メッセージ大会表彰式



①表彰式会場



②佐古理事長挨拶

公益財団法人しずおか健康長寿財団、静岡県及びすこやか長寿祭熟年メッセージ大会実行委員会の主催による静岡県すこやか長寿祭表彰式が令和2年1月31日(金)、静岡県立美術館県民ギャラリーにて開催されました。表彰式会場には第23回静岡県すこやか長寿美術展及び第20回熟年メッセージ大会の上位受賞者が揃いました。(写真①)

まずは主催者挨拶として公益財団法人しずおか健康長寿財団理事長の佐古伊康氏が登壇されました。(写真②) 続いて静岡県健康福祉部福祉長寿局長の山内章司氏が挨拶されました。(写真③)

まずは第23回静岡県すこやか長寿祭美術展県知事賞受賞者への表彰です。山内局長より表彰状と記念品が贈られました(写真④⑤⑥)



③山内氏挨拶



④県知事賞表彰



⑤記念品贈呈



⑥県知事賞受賞者

【県知事賞】(写真⑥)

- 日本画部門 藤井克治さん(81歳 浜松市中区) 作品名「憩いの樹」(写真⑤)
- 洋画部門 西原一美さん(69歳 浜松市中区) 「WINDOW」
- 彫刻部門 田邊 悟さん(78歳 牧之原市) 「おかあちゃん」
- 工芸部門 森脇弘子さん(74歳 浜松市西区) 「爽(そう)」
- 書部門 神谷知恵子さん(76歳 浜松市南区) 「富士と書」
- 写真部門 北川末子さん(74歳 浜松市北区) 「くすぐったいよ！」

続いて美術展理事長賞受賞者への表彰です。佐古理事長より表彰状と記念品が贈られました(写



⑦理事長賞表彰



⑧理事長賞受賞者

【公益財団法人しずおか健康長寿財団理事長賞】(写真⑧)

日本画部門 池谷千恵子さん(79歳 清水町)「宵待」(写真⑦)

洋画部門 藤原秀夫さん(70歳 焼津市)「Sai(Ⅱ)」

彫刻部門 大場啓史さん(83歳 松崎町)「若い女」

工芸部門 藁科剛一さん(87歳 焼津市)「石華紋練込み壺」

書部門 八木春畦さん(63歳 静岡市清水区)「王漁洋詩」

写真部門 小嶋富雄さん(82歳 静岡市葵区)「お見合は氷上で」

引き続き、後援者特別賞(静岡新聞社・静岡放送賞／中日賞)受賞者への表彰です。(⑨⑩⑪)



⑨後援者特別賞表彰



⑩最高齢者賞表彰



⑪受賞者

【静岡新聞社・静岡放送賞】

洋画部門 千田克洋さん(77歳 島田市)「あき缶達」(写真⑨)

【中日賞】

工芸部門 塚本初美さん(80歳 静岡市葵区)「お花畑」

【最高齢者賞】

洋画部門 堀井昌平さん(97歳 藤枝市)「今日もうれしい学校へ」

書部門 西澤綾子さん(98歳 静岡市清水区)「舞」(写真⑩)

続いて、すこやか長寿祭第20回熟年メッセージ大会優秀作品の表彰式が行われました。  
熟年メッセージ大会は、熟年世代がこれまで培ってきた豊富な経験、知恵を基に、これからの自分の生き方や社会への呼びかけなどを主張する内容の作品を募集し、応募作品の中から優秀作品を審

査、決定の上、公開の場において表彰、発表するものです。熟年メッセージの発表を通じて、世代による生活観、価値観の違いを理解し合うことにより、世代間の交流を深め、誰もが生きがいをもち、健康で安心して暮らせる長寿社会の推進を図ることを目的としています。

西谷祐一実行委員長より表彰状、佐々木隆志審査委員長より記念品が贈られました(写真⑫⑬⑭⑮⑯)



⑫熟年メッセージグランプリ表彰



⑬記念品贈呈

【グランプリ】

河合洋子さん(66歳 浜松市) 作品題名「新たな挑戦～地域とともに、つながって～」(写真⑫⑬)

【準グランプリ】

上野昌子さん(81歳 伊豆市) 「私の人生経験」八十路を歩んで」(写真⑭)



⑭準グランプリ表彰



⑮受賞者

【はつらつ賞】(写真⑯)

大石容一さん(89歳 藤枝市) 「戦争抜きには語れない僕の人生」  
 勝野井節子さん(71歳 袋井市) 「ブラジルへ届け 手作りの紙芝居」  
 久保田庄次さん(83歳 裾野市) 「《小さいのち》との出会いによって人生行路が大転回した夫婦の証し「本当の家族」を目指して イクメン爺&婆の子育て奮闘記」  
 四ノ宮政代さん(77歳 焼津市) 「二人の母に感謝して そして義母を看取って」  
 宮島克実さん(71歳 焼津市) 「「フーテンの宮さん」顛末記」  
 若竹秀信さん(69歳 富士市) 「ツバメに教えられたこと」



⑯はつらつ賞受賞者

最後は佐々木審査委員長の講評です。(写真⑰)

グランプリ作品「新たな挑戦～地域とともに、つながって～」

※定年退職後東日本大震災を機にNPO法人を立ち上げ、自ら東北へ向かい防災カフェなど様々な活動をしている。地域とともに素晴らしい実践をされている。

準グランプリ作品「私の人生経験」八十路を歩んで」

※年齢を感じさせない程、力強い報告で数多くの生きるヒントを与えてくれる。姑の介護、初孫の水死、子の不登校、八十路の経験など多くの示唆を与えてくれる。

表彰式後は主催者、受賞者全員で記念撮影です。皆さん和やかな表情です。



⑰佐々木審査委員長講評



⑱受賞者記念撮影

美術・芸術に生きがいを求めるシニア。豊かな人生経験を基に今後の自身の生き方、社会への貢献につながるメッセージを発信するシニア。こうした方々が一堂に会し、交流を深める機会は大変貴重であり、新たな希望の発信の場になるのではないかと思います。

取材：静岡地区担当 生きがい特派員 竹内 章